

記者発表（資料配付）

月 / 日	担当課(室) 係名	電 話	発 表 者 名	その他資料配付先
6月23日 (金)	歴史博物館 (学芸課)	079-288-9011	次長 市村 高子 (学芸課長 香川雅信)	県教委記者クラブ 中播磨県民センター 各報道機関

令和5年6月23日

さいとうきあん せきしげてる
齋藤崎庵書画（関茂昭コレクション）の受贈および
受贈記念展示の開催について

幕末から明治にかけて活躍した城崎（兵庫県豊岡市）出身の文人画家・齋藤崎庵（1805～83）の書画 287 点が、令和 4 年 9 月に兵庫県立歴史博物館に寄贈されました。またこれを記念し受贈記念展示を当館で開催します。

1. 齋藤崎庵について

齋藤崎庵(1805～83)は城崎（兵庫県豊岡市）の伊勢屋という旅館に生まれました。城崎を拠点に活躍し、各地を遊歴して数多くの山水画を描きました。

没後に刊行された著書『崎庵翁薄游漫載』（1912年刊）によると、崎庵は若ころ京都の文人画家・中林竹洞に学んだといひます。その後は播磨、四国、九州へと旅立ち、各地のコレクターが所蔵する中国絵画を模写し、さらに山々の奇観を実際に見て歩くことで画家としての腕に磨きをかけました。70代に入ると東京へ移住し、皇室に作品を献上するなど、老境に至っても旺盛な活動を続けました。

崎庵の作品は山水画がほとんどです。うさぎの絵を所望した人にさえ山水画を描き与え、「これだけの深山なのだからうさぎもいのししもいるだろう」と言ったという逸話は、崎庵の山水画に対する強いこだわりを伝えています。季節や時間、大気のようなすななどを丁寧に作品に織り込み、漢詩を添えた、実直で詩情の漂う作風が特徴です。



木村香雨《齋藤崎庵像》
（『崎庵翁薄游漫載』所載。兵庫県立歴史博物館蔵・喜田文庫）

2. ご寄贈者について

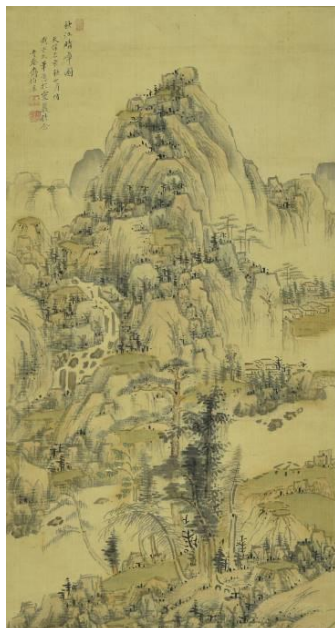
ご寄贈くださったのは豊岡市在住の関茂昭氏（1930～）です。郷土ゆかりの画家である斎藤崎庵について、半世紀以上にわたり作品を収集し、ご自身でも研究を続けてこられました。崎庵が初めて上京した年代について、従来は『崎庵翁薄游漫載』所載の伝記を根拠に明治12年（1879）75歳のころと考えられていましたが、関氏の長年の収集と研究により、崎庵の上京が71歳であった可能性が浮上しました。

このたび、コレクションの散逸を防ぐため、また崎庵研究のさらなる前進を期して、これまで蓄積されてきた研究資料とともに、書画287点を兵庫県立歴史博物館へご寄贈いただくこととなりました。

3. 関茂昭コレクションの意義

斎藤崎庵はいまだ一般的に知名度の高い画家ではありません。その理由のひとつに、美術館や博物館などにまとまった点数が所蔵されておらず、その業績を評価できなかったことが挙げられます。関茂昭コレクションは崎庵の29歳から没する79歳までの幅広い年代の作品を網羅しているため、彼の画業全体を振り返ることができます。287点もの点数のひとりの画家の作品が、ひとりの人物によって収集された点に、このコレクションの最大の特色があります。

今後の崎庵研究に資する大きな可能性を秘めており、研究の進展とともにますますその価値が高まることが期待されるコレクションです。



斎藤崎庵《秋江晴嶂》
天保10年(1839)、35歳



斎藤崎庵《懸泉截壁》
明治15年(1882)、78歳



斎藤崎庵《布引瀑布》
明治4年(1871)、67歳

4. 関茂昭コレクション受贈記念展示「画手文心—斎藤崎庵の詩と絵画—」

関茂昭コレクションは、斎藤崎庵の画家としての生涯を通覧できる唯一無二のコレクションです。作品をご寄贈いただくにあたり、関氏からは「崎庵は画もよいが詩も素晴らしい。崎庵の詩をみんなにわかりやすく紹介してほしい。」という思いも託されました。

崎庵は絵を描く際に常に詩を唱えていたといえます。本展のタイトル「画手文心^{がしゅぶんしん}」は、「手では画を描きながらも、心では文を記している」という崎庵の制作態度を、日本画家・深野知堂が評したことばです。本展では、斎藤崎庵の画業を振り返るとともに、関氏の思いを受け継ぎ、崎庵の詩と絵画の世界を紹介します。

展示期間 令和5年7月1日（土）～8月13日（日）

I期：7月1日～7月17日

II期：7月19日～7月30日

III期：8月1日～8月13日

展示会場 兵庫県立歴史博物館 1階 コレクションギャラリー

〒670-0012 姫路市本町 68

※コレクションギャラリーは入場無料。

※各会期に15点程度の作品を展示し、2回の展示替えを実施して合わせて約40点の作品を紹介します。

●関連イベント

れきはくアカデミー「斎藤崎庵の詩と絵画」

日時：令和5年7月30日（土）14：00～15：30

場所：兵庫県立歴史博物館 講堂

費用：無料

定員：80名（事前申込制、応募者多数の場合は抽選）

【受付期間】6月18日（日）～7月11日（火）

【申込方法】当館ホームページまたは往復はがき

お問い合わせ

兵庫県立歴史博物館 学芸課 山口奈々絵

TEL 079-288-9011

E-mail Nanae_Yamaguchi@pref.hyogo.lg.jp



斎藤崎庵《暗香籠月》

天保10年(1839)、35歳